



浪越学園だより

JAPAN SHIATSU COLLEGE

創刊号

編集発行人 浪越和民
 学校法人 浪越学園
 日本指圧専門学校

東京都文京区小石川 2- 15- 6
 〒112 TEL 03- 3813- 7354
 -0002 FAX 03- 3816- 3551
<http://www.shiatsu.ac.jp>



平成 21 年度 第 51 期 卒業式 (H 22.3.6 リーガロイヤルホテル東京にて)

「浪越学園だより」発刊にあたり

この程、「浪越学園だより」を発刊する運びとなりました。

編集の基本方針として

浪越学園の学生及び教職員相互の交流と理解を深める。

浪越学園の教職員、生徒保護者、卒業生へ広く情報を提供する。

浪越学園と地域社会との結びつきを深める。国際的発展を持ち、世界とのつながりをもつ。

広く学園内外の声を取り入れ、読みやすく、親しみの持てるものにする。

このような広報紙として、楽しい誌面を提供させて頂きたいと念願しています。

さて、浪越学園は、本年2月11日を以って、創立70周年の節目の年を迎えました。これを機に、学園が更なる団結を目指して、安全で優れた教育環境の構築に努めてまいります。

また、この3月6日には110名の卒業生を指圧師として、世に送りだしました。今年の卒業生も、先輩指圧師と共に、国の内外で心身を病む方々を、祖師浪越徳治郎先生の提唱された母心のモットーを以って癒すべく、活躍されることと確信しています。4月には120名の新入生を学園にお迎えしました。指圧師を目指して希望に胸を膨らませ、入学式に臨まれました。いまや新一年生は、学園にも慣れ親しみ、友達同士仲良く学び、且つ、課外活動にも励んでいます。

これから、学園内で行われる行事などを軸に、お伝え出来ればと思っております。皆さんの声をぜひお寄せ下さい。

校長 石塚 寛

学校法人浪越学園・日本指圧専門学校

平成21年度第51期卒業式

学校法人浪越学園・日本指圧専門学校平成21年度第51期卒業式が、3月6日土午前10時からリーガルイタルホテル東京「ロイヤルホール」に於て厳粛に執り行われた。

定刻10時、藤田一彦先生の司会で進行。黒沢純一先生の開式の辞、「君が代」斉唱の後、卒業証書授与に移る。昼間部担任石塚洋之先生、夜間部金子智久先生の呼名で、卒業生一人一人が壇上に登壇し、石塚 寛校長より卒業証書と専門士の称号が授与された。続いて各種賞状の授与(別掲参照)、石塚 寛校長

長の式辞、浪越和民理事長の挨拶の後、来賓のハワイ州立大学医学部教授・スコット・ロザノフ先生、煙山 力浪越学園理事より祝辞を戴いた。

来賓祝辞

道無き道を進み 足跡を残せ！

ハワイ州立大学医学部教授 医学博士スコット・ロザノフ

浪越ご夫婦、石塚博士、日本指圧専門学校の学生の方々、そしてご来賓の皆様、こんにちは。

祝電披露、在校生代表・大澤昌裕君の送辞、卒業生代表・大崎益弘君の答辞、校歌斉唱、黒沢純一先生の閉式の辞を以って卒業式を終了。

正午より、卒業記念謝恩パーティ、続いて卒業後初めての合同クラス会を行い、定刻午後4時大盛会のうちに終了した。

まず、浪越理事長と日本指圧専門学校に対して、心からお礼を申し上げたいと思います。2010年の卒業生の方々にご挨拶をさせて頂くという寛大なご招待をいただき、感動的な一日を皆さんと一緒に体験できることは大変光栄なことだと思っております。

私と日本指圧専門学校との関

係の始まりは、10年余り前に、ホノルルで因泥文彦先生と出会ったことです。その当時、私の大

学部門がハワイのコマディカルの方々のために、部分的検体や模型を使った解剖実習を週末に行っていました。因泥先生は、愛泉指圧の指圧師たちや、日本指圧専門学校の同僚たちに解剖実習が出来ないかと尋ねて来られました。そして、出来れば日本から浪越指圧の学生たちに全身検体の解剖実習を体験させることは可能でしょうか？と聞かれました。

このリクエストに、私はとても感心しました。なぜかと言うと、大体コマディカル関係者たちは部分的検体で十分だと思われているからです。明らかに因泥先生が代表しているグループは、教育、特に解剖学の勉強に

対して熱心なことがよく分かりました。話をしているうちに、因泥先生、それにすてきなワイフのエレインさんがどれくらい熱心な方々なのか、よく実感することができました。

そして、浪越理事長と石塚校長先生と、ハワイ大学医学部で具体的に週末で行うカリキュラムについて交渉が始まりました。浪越理事長のビジョンと展望、また教育や学習の重要性に深い理解を示され、浪越指圧師のために集中的、かつ詳細な解剖実習コースを作り上げる事が出来ました。

それによって、日本指圧専門学校とハワイ大学医学部との間

に、生産性の高い継続した特別な関係が出来、今も続いております。たしかに、ここにいらっ

しやる多くの方々が、このユニークなハワイ大学の解剖実習に参加して、貴重な体験を得られたと思います。「指圧」の完成から100年あまり経ったところで、日本指圧専門学校を設立した指圧の創始者である浪越徳治郎先生が、もし、今日ここにいらっ

しゃって、自分の息子さんかこういうふう浪越指圧の名前で、ハワイ大学医学部との大切な繋がりをきずき上げたのを見たら大変喜ぶでしょう。

臨床での診断や治療には、解剖学の知識は必要不可欠です。「癒しの手」で安らぎと治療をもたらす指圧師にとっては、通常解剖学と病理解剖学の理解は特に重要だと思えます。ご存知

の通り、指圧は特定の場所に圧を加えることで柔軟性を増進し、痛みをやらげられるための治療法として浪越徳治郎先生により開発されたものです。この治療法は、患者さんの健康状態が良好

になることを証明するデータがあります。同時に、世界中の科学者たちがツボを圧すことによつての具体的な生理的メカニズムや、指圧による治療的效果やヘルスケアへの影響を研究しています。皆さん、日本指圧専門学校で得られた知識を土台にして十分患者さんたちに治療して下さい。そして、彼らの人生に良い影響を与える力を持っている

荣誉に輝く人々

〔皆勤賞〕

3年間

- (A組) 井上泰佑
(B組) 安達龍太郎、大野愛実、竹村美樹、鈴木明美
(C組) 井上達也、小野寺賢一、高橋仁史、田口悠子、長濱有子、樋熊良美

1年間

- (D組) 加藤 遼、鈴木博昭
(A組) 内田ゆみ、堀 俊博
(B組) 望月敬子
(C組) 大岩治男、大谷昌孝、佐藤光明、山田敏夫

(D組)

- 赤岩知政

〔功労賞〕

3年間

- (C組) 井上達也、大崎益弘、田口悠子
(D組) 中 詩帆
(B組) 青木美稚子、廣田哲也、安達龍太郎、諏訪優美絵、吉柳より子、望月敬子

1年間

- (A組) 堀 俊博、紀野由美子
(B組) 相馬詩子、細淵大貴
(D組) 石川 尚、石野 聖、岡田 薫、岡野雄司、桐原謙介、土肥 匠、森 龍雄

(A組)

- 青木美稚子、岡本京子

〔特別賞〕

- 指圧研究会
(A組) 廣田哲也
浪越スポーツトレーナー部
(B組) 安達龍太郎、オイルマツサイジ部
(B組) 小島明子

東洋療法学校協会賞

- (C組) 大谷昌孝

「前ページよりつづく」
と信じてください。

この数年間、皆さん、一生懸命勉強して、トレーニングした結果、立派な浪越指圧を代表するプロになりました。常にこの業界の中で活躍すると共に、日本指圧専門学校から得た榮譽と恩恵を忘れないようにして下さい。謙虚な心を持ち、勉強とトレーニングには終りがないと認識して下さい。勉強し続けることは、自分の治療師としての成長にも繋がり患者さんに最善のケアを与えることにも繋がります。指圧という職業は、患者さんが中心で、よく診る患者さんと密接な関係が出来るでしょう。早いうちに、患者さんはあなた方の知識や独特な治療法、つまり、あなたの知恵を頼りにするようになるでしょう。そういう患者さんにアドバイスするため、知識と良心の気持ちを合せ

て患者さんのためになる正しい判断をしないとダメです。ハワイでは、この心構えを「ポノ」といい、ヘルスケアに欠かせないものだと言われてます。自分の才能だけではなく、その才能の限界も意識しないとダメです。やはり、やっている仕事は患者さんのためなのです。このヘルスケアの中心的な概念を常に心に持っている、自分の臨床的知恵を疑うことはないでしょう。今までの勉強にかけた時間と努力の結果として、指圧の技術や科学だけではなく、自分自身や周りの人との人間関係についても色々学ぶことが出来たと思います。あなたが大切だと思っている人に、あなたも大切にされ、頑張っているのを見守って支えてくれるでしょう。今日は自分にとつての誇りの日だけではなく、ご両親や兄弟にも幸せの日だと認識して下さい。卒業

した後でも努力しつづけ、周りの大切な方々に誇りを持たせて下さい。
学校にいる間、多くの事を学び、また大変な時もあったと思います。しかし、日本指圧専門学校の先生方の親切な指導により、迷いなくゴールまで走り抜けたでしょう。もう卒業です。学校にいる間先生たちとできた絆は一生消えることなく、いつでも相談してくれる反面、これ

校 長 式 辞

日本指圧専門学校
校長 石塚 寛

無事に3年間の学業を修了した皆様に、ここに栄えある卒業証書授与を行うことが出来る事は、日本指圧専門学校として大いなる喜びであり、心からお祝い申し上げます。

から将来に向って歩む道を、自分自身で決めないといけません。難しいようですが、十分知識と才能を持っているので自信を持って進んで下さい。
最後に、アメリカの哲学者ラルフ・ワルド・エマーソンからの言葉を伝えたいです。
道に沿って進むのではなく
道無きところへ進み
足跡を残せ
皆さん、頑張ってください。

よいでしょう。どうか3年間培ってきた、そして蓄えてきた皆様の熱いパワーを全開にして、ひるむことなく、自信を持って新たなチャレンジ精神を、今や国の内外の場で発揮して頂きたいと心から希望します。皆さんは指圧師として働くこと、また働くことのできる国家ライセンスを備えたのです。このことは大いに自負して下さい。これからは患者さんが教科書であり教師であります。患者さんの痛みを理解し、我が校のモットーである母心で接し、そして患者さんから十分に学んで下さい。日本指圧専門学校は、浪越徳治郎先生が創設されてから、今年創立70周年を迎えました。永い歴史と伝統の重みを感じ、日本指圧専門学校を卒業したことに強い誇りを持ち、さらに夢と希望を持って人生を強くたくましく歩み続けて下さい。母校を愛し、先輩たちの育んで来た名譽を大切にしたいと思っております。皆さんの背中には絶えず日本指圧専門学校の看板がついていることも忘れないことです。母校の発展の為に、同窓生、同級生との団結や親睦を深めて下さい。学校と同窓生の連携は、さらに母校の発展に大きく貢献します。同窓生あつての日本指圧専門学校です。

最後に、本日母校を巣立つ皆さんの人生に幸運あれとお祈りし、さらに健康には十分留意して下さいますよう、祈念いたします。



スコット・ロザノフ教授の来賓祝辞



感謝を込めて花束贈呈
謝恩パーティ



賑々しく初めての合同クラス会

ハワイ大学解剖学実習

日本指圧専門学校
教務科長 黒沢純一

今年もアメリカ合衆国、ハワイ州立大学(以下ハワイ大学)医学部に於て、解剖学実習が行われました。2002年から始まったこの実習も、今回で9回目となり、学生及び職員の延べ参加人数も400名を超えました。この実習は、日本指圧専門学校を代表する行事のひとつとして定着しています。

まず、解剖学実習のお話をする前に、この実習の立役者、因泥文彦先生(第15期生)のことをお話しなければなりません。因泥先生は、日本指圧学校を卒業された後1977年ハワイ州のホノルルに移住し「愛泉指圧治療道院」「愛泉指圧学校」を設立されました。以来30年以上浪越徳治郎先生の「指圧を世界は広めよう!」というスローガンを忠実に守られ、現在ハワイ州に於て最も治療実績のある指圧師であり、また名士であります。約13年前、因泥先生がハワイ大学での解剖学実習に参加されたのがそもその始まりです。そこで、医学部のスコット・ロザノフ教授とお知り合いになったことが縁で、因泥先生は母校指圧学校の学生がハワイ大学で解剖学実習を行えるよう御尽力した下さいました。そして、第一回ハワイ大学解剖学実習が2002年に現実のものとなったのです。

ハワイ大学医学部は、ワイキキから約20分の力カアコという地区にあります。海からも近く、大学敷地内には椰子の木々が風にそよぐこれぞハワイ!というイメージです。解剖学実習は、毎年3月の第3週の土曜日、日曜日に行われています。大学の中庭に面したテラスで朝食を済ませてから解剖室に入ります。白衣やマスクをして身支度を調べた後、自からの身体を医学の発展と教育のために献けて下さった方々への黙祷をして実習が始まります。2日間の内容は大変濃密で、朝9時から夕方まで、発見・感動の連続です。解剖学の授業で習った筋肉・神経・血管・内臓などを自分自身の目でよく観察して復習し、自分自身の手で触れて形状や質感を実際に確かめます。最初は緊張しながらメスを握っている学生達も、次第に時間の経つのも忘れ引き込まれていくのがよくわかります。解剖学実習は、これから指圧師として成長していく過程にある学生達にとって貴重な経験となり、帰国後の学校生活や臨床の場で役に立つ大きな収穫となるはずですよ。

その実習を第1回から長い間、担当して下さいているのがスコット・ロザノフ教授です。教授はわかりやすくそして熱心に実習を進めて下さいます。そのほかにも、大勢のハワイ大学医学部のスタッフが実習に参加して下さい、学生に対して理解しやすいう環境作りをサポートしてくれています。

ています。

ここで、初期の頃の実習と現在の実習で変わった点を羅列してみます。

・実習場所：初期の頃は、マノアという渓谷に近い場所に医学部がありました。現在は、前述したように海沿いの力カアコという場所に移動しています。

・参加資格：以前は、解剖学を修了した2年生・3年生のみ参加可能だったのですが、現在はカリキュラムの変更に伴って1年生も参加できるようになりました。

・実習内容：医学部の先生方が解剖した御献体を観察する実習の形式から、実際に解剖を行う実習の形式に変わっています。

・日数：この実習が始まった頃は4泊6日という行程でしたが、現在は5泊7日となり、解剖学実習2日間のほかに自由行動日が2日間あります。

・宿泊：以前はハワイ大学の学生寮に宿泊していました。医学部の移転にもない、現在はワイキキのホテルに滞在しています。

このように、少しずつではありますがありますが、さまざま面でよりアカデミックに、そしてより快適な実習へと変化しています。まだまだ紹介したいことは沢山ありますが、ハワイ大学解剖学実習の素晴らしさを全てを、この紙面で書ききることは困難です。来年の3月で実習はいよ

いよ10回目を迎えます。解剖学の知識をさらに深めたい方、この記事を読んで解剖学実習に興味を持たれた方、大勢の皆さんの参加をお待ちしています。

ハワイ大学解剖学実習に

参加して

3年C組 永井 努

昨年に引き続き、今年もハワイの解剖学実習に参加することが出来ました。まず到着して、最初のイベントとして、病院でポランテア指圧を行いました。外国の方にはめつたに指圧は出来ないのですが、上手く出来たかは別として、貴重な体験の一つだったと思います。最終的に30人以上の人達が来ていたと記憶しています。因みに、指圧をした感想ですが、結構肩から背中にかけて、硬い人が多かったような気がします。そして、やはり英会話は出来た方がいいのかなというのが実感です。

さて、本題の解剖学実習ですが、今年少しマイナーな部位の印象が強く残ってしまったというのが率直な感想です。例えば、後頭下筋群の美しさに目をみはり、下腿の解剖では、人体で時々欠如する第3腓骨筋が出てきた時に感動を覚え、脳の解剖において脈絡叢とクモ膜顆粒の構造の細かさに驚き、さらに他臓器からではなく、このクモ膜顆粒から細菌などが侵入し、髄膜炎が発症することもあるという話に至っては、驚きと共に、

一瞬恐怖を感じました。また全体的な感想として、今回は実際に解剖を行なうご献体の他に、内臓全体の構造、個々の臓器、目等の感覚器、人工関節等の標本が準備されていて、さらにそれらについて解説を加えていただけだったので、より深い知識を得られる事が出来たと思います。

他にも、今年自由行動の日、ハワイ島のキラウエア火山の観光に行き、生きている地球を実感する事が出来るなど、楽しく日々を過ごすことが出来ました。

充実した研修であったにもかかわらず、その感動を十分に表現出来ない自分に歯がゆさを覚えます。しかし、もしまた来年も機会があれば、是非参加したいと思っております。

最後に、この企画を実現するために、尽力をしていただいた諸先生方には深く感謝しております。本当にありがとうございました。

2年B組 畦地 沙智子

日本からハワイへは約5時間ほど、初めてのハワイの感想は、思ったよりも暖かく、初夏のようでした。到着後、バスに乗りハワイ観光へ向いました。「この木何の木、気になる木」で知られるモアナアガアデンヤカメハハ大王と回る内、やっとハワイに来た実感が湧きました。その後、クアキニヘルスシステムにてポランテア指圧をし

(次ページへつづく)



「前ページよりつづく」

ました。広いホールで椅子を並べ、一人15分程度の座位指圧、今年で9回目のこの会で300人を越える施設のスタッフを60人で押ししました。満足してもらえるか不安なもの、終ると「Thank you」と笑顔で言ってお下さることで毎回ホッとしました。

2日目と5日目は自由行動でした。2日目はまだ暗い内にダイヤモンドヘッドに登って頂上ですばらしい景色を眺めながら朝食を食べ、下山後バラセイリングをしました。バラセイリングはパラシュートにぶら下がり、船に引っぱってもらうものです。船から一気に離れ、上空まで上ると風が強いものの、空から眺

める深く青い海や眼下に広がる景色は最高でした。5日目は、ホノルル動物園に行きました。そこは日本と違って緑が多く、より自然な展示がなされています。その後はアラモアナショッピングセンターへ。2日あつてもとても回り切れない程のたくさんのお店が集まっています。地元の人たちも面白い物に来るところです。

ハワイ大学での解剖学実習では、実際の御献体を前にしました。初めは一つ一つの筋や臓器を目の前に、恐る恐るメスを握り、没頭しました。解剖の解説はハワイ大学の先生が英語で説明、それを通訳の方が日本語に訳して下さいました。腕神経叢の解説や実際の所見など、教科書上では複雑で分かりにくい部分や、教科書と実物では違うことが度々あり、驚きながらも深く理解することができました。ハワイ大学の先生から質問が投げかけられることもあり、一年で学んだ知識の確認ができ勉強になりました。ハワイ大学での貴重な経験はこの学校ならではのです。今回、ハワイを満喫できて本当に良かったと思います。

ハワイで学んだこと

3年B組 佐藤真理

3月18日から24日、私達はハワイ研修旅行に行った。解剖実習は、思った以上に学べる事が多く、ハワイの海は引き込まれるくらいキレイだった。この研修は、沢山のことを私に教えてくれた。

出発当日、みんなで飛行機に乗り込み8時間の長旅が始まった。となりの席に座ったのは、なんと同じ名字の佐藤さん!!しかも旅行好きというところまで一緒だった。おすすめは、「モングール」「トルコ」「エジプト」とい。とくにモングールはゲルというテントに住みながら、馬などの動物と自然と人が一体になっているところを体験できるらしい。なんかいいなあ。そういうの。と思っていたらハワイに到着!!楽しい時間は本当に短い!!

ハワイは思っていたよりも暑くなくて、少し肌寒いくらいだった。しかし、空はとつてもいい天気!!まずはみんなでハワイ観光!!一番初めにいったのは、「この木なんの木、気になる木」でおなじみのおっきいあの木!!幹も太いが、枝が四方に広がっていて本当に大きい。ああいう木は日本にはないんじゃないかな。とにかく上より横!!メタボ状態!木に触れると、すごいパワーを感じた。さすがです。パワーをありがとう。

朝食後はボランテア指圧!!

英語ができないけれど大丈夫かなと不安に思っていたら、犬とおじいさんが近くのベンチに座った。よし!まずはワンちゃんに指圧をしよう、近くにいた仲間達と一緒にその犬に指圧を始めた。

ワンちゃんはとっても気持ちよさそうに目をとる。んとしてくれた!おじいさんが「帰ろう」といっても、抵抗して動かさなかつた。大事な言葉じゃなくてフーリング!!気持ちです。ワンちゃんのおかげで自信がついた。チキータ(犬の名前)センキュー。ボランテア指圧では、私は4人の方に施術を行った。気持ちを込めて押ししたら、みんなが本当にうれしそうに顔を上げてくれた。ハグもしてくれた。やっぱり言葉は関係なかった。あまりに楽しいので、一日中やりたいくらいだった。こういう時、「この世界に入った本当に良かったな」としみじみ思う。指圧は本当にギブ&テイクです。与えられるものが本当に大きい!!感謝です。

メインの解剖学実習では、すべてが驚きの連続だった。皮膚がこのくらい厚いんだ?神経と動脈と静脈は触ってみるとこんなに違うのね?肝臓ガンになると、肝臓はこんなに肥大するの?なにもかも新鮮で、感動的だった。

解剖の担当をして下さったのは女性のケリー先生!先生は日本語も話せるので、私達に、

とつてもわかりやすく教えてくれた。身振り手振りとかギャグを交えて。例えば、閉鎖神経を説明するとき、hey!(閉)とさあ??(鎖)といった具合にポーズをとって教えてくれた。「これなら頭に残るっ!」教科書を丸覚えするのではなく、そうやって学べばいいのね。

これだけの事を教えてくれた先生方、そしてご遺体に本当に感謝します。自由時間の日、私達はマノアの滝というところに行った。滝がある場所に行くまで、木の中を30分ほど歩く。ハワイは海もいいけれど、山もすくいいと黒沢先生が言っていたけれど本当にそうだった。

ハワイの木は手を広げているみたいに横に長い。まるで何かを守るように。なんだか母親みたい。

最近、「母心」の意味がなんとなくわかった。相手を愛しいと思つ心、なんだと思う。最近そういう気持ちで施術したらすごく出来が良かったので(笑)。なにげなく指圧の前に唱えていたスローガンだが、あのスローガンは、指圧の本質を伝えていると気づいてしまった。それを忘れずにやっていきたい。これから、ハワイで学んだことを忘れずに、日々精進していきたいです。以上、サトマリ日記でした!

平成22年度

第54期入学式

学校法人浪越学園・日本指圧専門学校、平成22年度第54期入学式が、平成22年4月3日(土)、午前10時から文京区の茗溪会館に於て執り行われた。

定刻藤田一彦先生の司会で開会。黒沢純一教務科長の開式の辞、「君が代斉唱」の後、各学級担任による新入生の呼名、石塚寛校長の「校長式辞」(別掲参照)、浪越和理事長の祝辞に続き、青木 宏日本指圧専門学校同窓会会長の来賓祝辞。来賓紹介、祝電披露に続いて、在校生代表大澤昌裕君の「歓迎の言葉」、新入生代表青羽吉夫君より「新入生宣誓」があり、各学級担任の紹介、校歌斉唱、黒



A組



B組



C組



D組

沢純一教務科長の閉式の辞を以つて第54期入学式を終了した。

校長式辞

日本指圧専門学校

校長 石塚 寛

学校法人浪越学園・日本指圧専門学校へご入学の120名の皆さん、おめでとうございます。ご参列の御父母、御家族の皆様にも本日のお祝いを申し上げます。御来賓の先生方には御多用中のところ、御臨席下さいましてありがとうございます。

さて、今日は、皆さんの希望に満ちた明るいお顔を迎えることが出来て本当に嬉しく思います。皆さんは、これから、この学校の生徒として新しい出発をいたします。将来に向けて、いろいろな夢を持って入学された

事と思えます。入学時のこの感激を胸に、これから勉強に励んで下さい。

本校は、故浪越徳治郎先生によつて創設され、今年の2月に創立70周年の節目の年を迎えました。本校に「指圧の心、母心」とありますように、校訓は人に優しく、裏を返せば己に厳しくということであると思えます。このことを是非守って頂きたいと思えます。

本校に入学されて、指圧実技を初め、色々な新しい科目を勉強することになります。勉強するということとは、自身を規制し努力しなければなりません。勉強の主人公は自分自身です。この学校での勉強は、その意味でまず、自分を励まし努力することが非常に大切になります。あくまでも、自分の足でしっかり

と立つこと。自分で考え、かつ、責任を持つて行動することが自立です。この学校での勉強にはこの自立の姿勢、精神が要求されることと思えます。自分自身の勉強であるということを、改めて頭に入れて下さい。そして、可能性を一杯開発して下さい。又、学校は小さな社会です。自分や友達だけのことでなく、クラス全体、学校全体のことを考えることが大切です。これからは、一人一人が日本指圧専門学校

浪越徳治郎先生は、入学式に必ずおっしゃられる言葉がございました。それは「発心・実行・継続」という言葉です。発心とは、発菩提心と言つて、菩薩が成仏を願つて誓祈願を發して修行に入る事を言いますが、皆さん

んは指圧師になることを願つてこの学校に入る決心をされ、入学試験を突破され、入学を實行されました。これからが勝負所で、3年間継続勉強し指圧師としての実力と教養を身につけなければなりません。一つのことを実行し、継続させることは集中力が欠かせません。皆さんはこれから色々な事に直面すると思えますが、自分の大きな目的に向つて、実行・継続あるのみで頑張りましょう。そして、卒業されて国家試験に合格して、初めて国家のライセンスを手に入れるのです。そのためには、一日一日が大切になります。本校の先生方は教育熱心な方ばかりです。先生方の教えを良く守つて、日々切磋琢磨して頂きたいと思えます。

さて、学校では、部活としては野球部、マラソン部、オイルマツサージ部、浪越スポーツレーナー部などがあり、又、指圧の科学的解明を目指して研究する指圧研究会があります。そういう所に所属しますと、先輩後輩が縦につながり色々な情報が頂けると思えます。勉学にスポーツに研究に、また学園祭、卒業旅行にと学校行事にも積極的に参加され、学園生活をエンジョイし、そして、終生お付き合いの出来る、良いお友達を作り、悔いのない3年間を送つて頂きたいと思えます。本日は誠に

世界に広がる日本の「指圧」

日本で発祥した「指圧」は今や全世界に広がり、イギリスの医学辞典に「SHIATSU」の項目が載るまでになった。

ここまでは来るには、先人達の並々ならぬ苦勞があった。特に指圧創始者浪越徳治郎先生の情熱と努力は大変なものであった。浪越徳治郎先生は「日本の柔道が全世界に広がり、今やオリンピック種目にまでなった。次に日本の文化として世界に広めるのは「指圧」だ」と云って、「第一回指圧国際大会」を開催したのが、昭和54年6月であつた。

た。会場の京王プラザホテルには、3日間で延べ二千名を超す方々が参加し大成功のうちに終了した。

その後、毎年のように世界各地で「指圧国際大会」を開催し、日本から参加した指圧師(50人)が指圧のデモンストレーションを行った。どの会場でも「日本の指圧を学ぼう」とする人々で熱気に溢れていた。浪越徳治郎先生は、「指圧は地球を支える」のスローガンを掲げ、指圧による世界平和を訴え続けた。「指圧の心 母心」

「母心」とは、相手の身になつて思いやる心である。この相手を思いやる心があれば争いは起こらない。国家間でも、相手の国を思いやる心があれば戦争は起きない。浪越徳治郎先生は、指圧を通して、人類の健康と世界平和に貢献しようとする努力し、その生涯を閉じられた。

昭和61年8月24日、万国博開催中のカナダ・バンクーバー市に於いて開催された「第五回指圧国際大会」で、アメリカ・オレゴン州のカイザー病院に勤務するドクター・フォレスト・リゲット博士が「指圧で湧く泉 “鎮痛剤”」と題して素晴らしい内容の特別講演をされた。

指圧で湧く泉 “鎮痛剤”

オレゴン・カイザー病院
ドクター・フォレスト・リゲット

第五回指圧国際大会にお招き頂き、こうして講演の出来まことを大変感謝いたします。私はドクター・フォレスト・リゲット



フォレスト・リゲット先生

トと申し、現在オレゴン州のカイザー病院で働く医学博士です。私と指圧の出会いはここにおられる今井彰氏(通訳)との出

会いに始まります。今井氏は日本指圧専門学校の出身(24期)です。

昨年、腰痛で苦しむ私の妻を彼の指圧が救ってくれたのです。しかもたった1回の治療でした。東洋の神秘「指圧」への私の興味はつのりましました。

指圧には、人体に対し7つの効果があると浪越徹先生の著書「指圧療法」をもとに今井氏は説明してくれました。その7つの効果が、身体の動きを正常にし健康を保つのに役立つのです。皆さまもよくご存知のように

その中に

神経系統の動きを調節するホルモンの働きを調節するという2つの効果があります。

この2つが、私の目をとらえました。……シカゴの医大で学んだ生理学に通じるものを見つけたのです。

最新の研究によると、指圧によつて、神経系統とホルモンが刺激されるだけでなく、その際我々の身体の中に「エンドルフィン」という天然の鎮痛剤がつくられることがわかりました。

この「天然の鎮痛剤? エンドルフィン」こそあの有名な「人工の鎮痛剤? モルヒネ」とよく似た化学構造をもつもの、つまり、人間の身体がつくる、天然のモルヒネというわけです。ここで「エンドルフィン」の

簡単な定義をしてみました。これは、身体みずからがつくり出す「麻酔」のことです。人体に、モルヒネ同様の生態反応をおこすもので、それにはいくつもの種類があります。あるものは5〜10分の短時間効果をもち、またあるものはモルヒネよりも強力で、数時間にわたつて効力を持ちます。

何が「エンドルフィン」を分泌させるかといいますと、次の2つがあげられます。

A、脳神経に圧迫を加えると間接的に脳頭蓋腔に刺激が伝わります。先ほど述べた脳脊髄液が「エンドルフィン」の増加を伝えるわけです。

B、末梢神経根へ刺激を与えると脊髄と下肢下部に於て、「エンドルフィン」が分泌される。

指圧は、この働きを利用して「エンドルフィン」を放出させているわけです。これにより痛みを顕著におさえることができます。

ではその「エンドルフィン」はどこでできるのかといいますと、おもに脳下垂体、そして中枢、末梢神経システムのシナップスにおいてつくられます。

つぎに「エンドルフィン」はどのように感覚器に伝達されるかといいますと、脳脊髄液と脳下垂体からの血液の流れ、主にこの二つにより伝達されます。

それは身体のどこに作用し、またそのおもな働きにはどんなものがあるでしょうか?

A、視床下部には多数の「エンドルフィン」のための感覚器があり、それらが主に視床下部から出る抑制ホルモンと刺激ホルモンを調節します。ですから「エンドルフィン」は多数のホルモン分泌作用を調節しているわけです。

B、脳室にはたつきかけ、行動の調整をします。

C、また中枢神経にはたつきかけ、痛覚の調整をします。

この「エンドルフィン」分泌の結果、次の3つのことがおこります。

A、無痛(痛みの抑制)

B、気分そして行動への影響

C、ACTH(副腎皮質刺激ホルモン)への刺激……これは炎症を抑える働きがあります。

まとめとして、指圧療法は、身体を圧によつて刺激し身体自身の鎮痛剤「エンドルフィン」をつくることによつて痛みを取り除くことが出来るのです。

さて、指圧は、天然の鎮痛剤「エンドルフィン」をつくり出すことができますが、マッサージでは、十分な刺激を与えることができないため、「エンドルフィン」をつくることができません。「おせば生命の泉湧く」と言います。「エンドルフィン」こそ、この神秘の鍵を握る「泉」なのかもしれません。

「指の光」昭和61年9月号(339号)より

ベトナム・ホーチミン市 浪越徳治郎先生の銅像建立

ベトナムに於て指圧・マツサージの治療院を経営する、チュオン・テイ・ゴック・アン氏より、指圧の創始者浪越徳治郎先生の銅像をホーチミン市に建立させて頂いた旨のご連絡があり、浪越和民理事長夫妻がご招待を受けて現地へ赴いた。

銅像建立の主旨は、「指圧の知識を学んだ当地のマツサージ師の精神生活に伝えるため、殆どのマツサージ師にとつて、日本へ行って祖師のお墓にお参りし、お線香を上げる機会はありません。ですから、ホーチミン市に祖師の銅像を建立し、指圧を学ぶ前、指圧を学んだ後、それから指圧を使って患者を治療する際に、施術者に先生に対する敬意を表するチャンスを与えたかった」ためである。



浪越徳治郎先生銅像前で
浪越和民理事長夫妻

日本の指圧は、ベトナムにも深く根付いた。今後の成長、発展が期待される。

平成22年度学校行事案内

- 4月 入学式・始業式・オリエンテーション・内科検診・健康診断・避難訓練
- 5月 2年生旅行
- 6月 中間試験・1年生遠足
- 7月 学園祭・学校説明会
- 8月 夏季休業・夏期大学
- 9月 期末試験・社会人入学試験(1次)・秋季休業
- 10月 学校協会学術大会・学校説明会・推薦入学試験
- 11月 一般入学試験(1次)・中間試験
- 12月 3年生卒業実技試験・社会人入学試験(2次)・冬季休業
- 平成23年1月 一般入学試験(2次)
- 2月 1・2年生期末試験・国家試験
- 3月 1・2年生評価試験・3年生卒業旅行・卒業式・ハワイ大
学解剖学実習研修・春季休業

平成23年度 学生募集要項

社会人入試(第一次募集)

- ・入学選考日 平成22年9月12日
- ・出願期間 平成22年9月1日水～9月9日木まで

社会人入試(第二次募集)

- ・入学選考日 平成22年12月5日
- ・出願期間 平成22年11月25日木～12月2日木まで

推薦入試

- ・入学選考日 平成22年10月17日
- ・出願期間 平成22年10月7日木～10月14日木まで

平成22年4月より新任された先生方

- 常勤 黒澤 一弘先生
- 常勤 中 詩帆先生
- 講師 齋藤 優子先生 (栄養学)
- 講師 小野 浩二先生 (保健体育)
- ・平成22年3月を以って退職された先生方
- 常勤 青木 宏先生
- 講師 出口 和雄先生 (生化学)
- 講師 上村 孝司先生 (保健体育)
- 講師 米山 寿一先生 (病理学)
- 講師 栗原 郁美先生 (栄養学)

一般入試(第一次募集)

- ・入学選考日 平成22年11月14日
- ・出願期間 平成22年11月1日～11月11日木まで

一般入試(第二次募集)

- ・入学選考日 平成23年1月23日
- ・出願期間 平成23年1月11日火～1月20日木まで

学園祭のご案内

平成22年度の学園祭は、左記の日程で開催されます。

日時 平成22年7月18日
午前10時30分～16時

毎年恒例のメインイベントである5階実技室でのチャリティ指圧、校庭での坐位指圧、その他イベント盛りだくさんで進めていきたいと考えております。

学園祭当日は、伝通院にて、あさがお・ほうずき市、も開催され、学校界隈は大変賑やかになっております。学生の頑張る姿を是非御覧になってください。多くの皆様のご来校を心よりお待ち申し上げます。

学校説明会
当日は、学校説明会も行います。詳細は、後日ホームページにてご案内いたします。



好評だった坐位指圧(学園祭で)



但し、社会人入試(第一次・第二次)、推薦入試、一般入試(第一次)の合格者が定員に達した場合には実施いたしません。尚、詳細は平成23年度学生募集要項をご参照下さい。

資料請求先
日本指圧専門学校
〒112-0002
東京都文京区小石川一 一五 六
電話〇三 三八三三 七三五四
<http://www.shatsui.ac.jp>